Sugarless

青葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｓｕｇａｒｌｅｓｓ

【Ｎコード】
Ｎ７７５１Ｘ

【作者名】
青葉

【あらすじ】
新蘭パラレルです。この話では新一と蘭は年が２つはなれていると言う設定です。――――――――――――幼いころ、新一と出会い、仲良くなった蘭。幼いながらも新一の事が好きだと思うようになった蘭だったが、学年の違う２人はやがて交流がなくなってしまう。それから数年、高校生になった蘭が見たものは、学校で１番の人気者となった新一の姿。久しぶりに話して、やはりまだ新一が好きだと自覚する蘭。蘭の事を大切に思う新一。甘いけど、甘くない、２人の恋。

1番最初の思い出（前書き）

他のもどん詰まってるクセに新連載はじめました。
これまたのんびり更新になります。

1番最初の思い出

ある日の毛利家

「おかあさん。どこに行くの？」

「お母さんのお友達のところよ。蘭も来る？」

「うんっ。行く！」

そうして幼い蘭が母、英理に連れてこられたのは

「わ～、おっきいお家だね！おかあさんのお友達、ここに住んでるの？」

小さな子どもにとっても、大人にとっても、巨大な邸宅。
そして蘭がそこで出会ったのは――――――――――――

「あら～、英理ちゃんいらっしゃい！
その子はもしかして蘭ちゃん？かわいいわね～」

母である英理に負けず劣らず綺麗な女性と。

「じゃあ蘭ちゃんの面倒は新ちゃんに見ててもらおうかしら？
新ちゃ～ん！本ばっか読んでないでちょっと来なさーい！」

「なんだよ母さん。今いいとこだったのに」

ぶつくさ言いながら現われた自分よりも少し年上と見られる少年。

それが、蘭の新一との初めての出会いだった。

入学式の朝（前書き）

最初だけ連続投稿。

入学式の朝

それは、幼い頃の優しい記憶。

有希子に呼ばれ、蘭の相手役を任された少年は渋々ながらも蘭に話しかける。

『オレはくどうしんいち。5さい。おまえは?』

『らっらん!もうりらん。3さいです』

幼稚園の同級生以外で初めて話す、年上の少年に対し、少し緊張しながら蘭は答えた。

それだけで会話が途絶えてしまう。

母親たちはすでにおしゃべりに夢中だ。

どうしよう、と蘭は困り顔で英理をみやるが、母は当然気がつかない。

『ふぇ』

あまりの心細さに泣き出しそうになったその時、わずかに開いたその口になにかが放り込まれる。

その放り込まれた“何か”は甘く、ほろほろと口の中で溶けていく。

びっくりして目を開けるとそこには新一の姿が。

新一は目を丸くしてる蘭に笑いかけると、

『母さんにもらったおかしだ。

泣いてたらしょっぱくなるぞ』

そう言うなり、蘭の手を引っ張り、家の外へと連れていく。

『ねっ、ねぇ、どこにいくの！？』

急に引っ張られ、慌てて靴を履きながら、新一に訊ねる。

『いいから、ついてこいよ！』

そしてそのまま連れていかれた場所は――――――

『わぁっ、すご～い！お花がいっぱい！』

野の花が満面に咲く花畑。

驚きながらも嬉しそうにする蘭に新一は得意げに笑う。

『まえに母さんが言ってたんだ。ここは春になるとすごくきれいだって』

読書を中断させられ、自分の相手をするのを嫌そうにしていたのに、わざわざこんなところに案内してくれた。そう思うと蘭は嬉しくて新一の抱きついた。

『ありがとう、しんいちおにいちゃん！』

『わ、ちょ、やめろってば！

だいたいなんだよ“しんいちおにいちゃん”って！』

いきなり抱きつかれて赤くなり、蘭を引き離しながら新一は言う。

『だって、しんいちおにいちゃんはわたしよりおにいちゃんでしょ？』

年上の男の子はおにいちゃんと言うのだと教えられていた蘭は不思議そうに訊き返す。

新一を“おにいちゃん”と呼んではいけないのか、と。

『だからって別におにいちゃんなんてつけなくてもいいだろ？』

しんいちおにいちゃんと呼ばれたくなかった新一はそれを辞めさせようとする。

『え～、だったらどう呼べばいいの？』

他にどう呼び方があるのかと不満のにじみ出た声で蘭がもう1度聞くと、

『しんいちって呼べばいいだろ！？
オレもおまえのこと、らんって呼ぶからさ！』

そう、返ってきた返事に、蘭はぱぁっと顔を輝かせる。

『うん！じゃあそう呼ぶ！だから、しんいち、これからもわたしとあそんでくれる？』

年下の少女のそんな無邪気な問いかけに、読書の邪魔をされた不機嫌さをすっかり忘れた新一は、

『しょーがねーな！いつでも家にこいよ！』

力強い笑みと共にその手を差し伸べた。

幼い蘭はその手をとろうとし、手を伸ばし――――――

ピピピッ　ピピピッ

「あ、れ・・・？」

どこか気の抜けた声を出しながら蘭は目を覚ます。

夢の中で伸ばした手が空を掴んでいる。

ということは、

「夢、か・・・・」

そう、あれは夢だ。
もう蘭は3歳ではない。
母である英理も父と喧嘩したまま別居中。
父は刑事を辞め、今は売れない探偵だ。
あれから十数年経ち、蘭も今日から高校生になる。
でも、

「なつかしい夢だったな」

小さい頃、1番仲の良かった少年を思い出す。
この十年ばかりの間に、彼とはすっかり距離が開いてしまい、彼の小学校卒業と同時に毎年やりとりしていた年賀状すら出さなくなってしまった。
おまけに蘭は受験当日、風邪で寝込んでいたため、新一の行った帝丹中学に通えなかった。
だが、今日からは、
今日からは彼と同じ帝丹高校に通う事が出来る。
べつに新一がいるから帝丹を受けたわけではない。
中学の時のリベンジだ。
だから、新一のことなど関係ないと言えばそうなのだが、

「会いたいな・・・久しぶりに」

たった今まで見ていた夢のせいか、むしょうに会いたくなった。
1年生と3年生。
学年は違えど同じ高校なんだから、きっと会えるよね、と思い、蘭は朝の支度を始めた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7751x/

Ｓｕｇａｒless

2011年10月21日07時01分発行